

令和7年度事業計画

社会福祉法人 翡翠会



社会福祉法人 翡翠会

法人の理念

「地域と共に生きる」

翡翠会行動指針

「3つの顧客、3つのLIFEの最大化」

3つの顧客

- ・利用者様…翡翠会のサービスを利用する方々
- ・地 域…大網白里市をはじめ山武郡市の地域住民
- ・職 員…翡翠会に勤務する職員

3つのLIFE

- ・生 命…健康管理
- ・生 活…日常生活
- ・人 生…生きがい

利用者様への基本姿勢

- ・利用者様の意向を尊重して、多様な福祉サービスが総合的に提供されるよう創意工夫すること。
- ・利用者様個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成すること。
- ・利用者様の能力に応じ、自立した生活を地域で営むことができるよう支援すること。

翡翠会職員行動規範

- ・「清潔感」と「礼儀正しさ」
- ・「スピード」は誠意のあらわれ
- ・「普通の感覚」を忘れない
- ・「エコ」～「お金」「もの」「人力」を大切に使う
- ・「能動性」～自ら気づき行動する勇氣
- ・「チームワーク」～自己任務遂行と多様性の尊重

事業計画

令和7年度法人目標

人口減少・物価高騰など社会変化に対応する「スマート経営」を
実践し、「3つの顧客、3つのLIFEの最大化」を実現する

(重点目標)

- ・山武みどり学園の改修工事による利用者様・職員の生活環境の向上
- ・年間公休数を6日増やし、更なるワークライフバランス向上を図る
- ・(仮称)生産性向上部会を設置し、業務における課題抽出→改善→検証を事業所の枠組みを超えて行っていく
- ・キャッシュレス化の推進
- ・部署を超えた応援・協業の更なる推進

○法人事務局

実施事業

マネジメント

- ・理事会決定事項に基づく、法人全体、各事業(所)への効果的なマネジメントとサポートをする。
- ・コストパフォーマンスを意識した法人運営のため情報収集・分析・対応策の検討を行い、理事長や理事会へ報告する。
- ・全事業所の業務効率化・集約化を検討・実行する。
- ・働き方改革の実施と法人運営に関わる法令等を厳守する。

人材確保と育成

- ・採用活動と広報PR活動を行う。
- ・法人全体研修を実施する。

取り巻く環境

マネジメント

- ・昨年同様引き続き業務の効率化・省略化・DX(省人化)・ペーパーレス化・データのクラウド化(電子保存推進)の必要に迫られている。
- ・LINEWORKSとGoogleワークスペースを活用した効率的業務の推進。
- ・ワークライフバランスに基づいた職場環境の構築(時間外勤務の削減)。

人材確保・育成

- ・生産労働人口の減少と過疎化により人材確保と人材育成は喫緊課題であり

少数精鋭での事業所運営が求められている。

- ・産休育休取得職員の復帰支援体制のさらなる拡充。
- ・外部研修参加の機会をさらに提供する。
- ・人材定着のため定期的な面談（1on1）を継続実施する。
- ・広報 PR 活動を強化（HP と Instagram）する。
- ・労災事案の起こらない職場環境を構築する。

事業の重点項目

マネジメント

- ・各事業所、法人事務局出納（出入金）業務効率化のため「キャッシュレス化」を一層進める。
- ・働き方改革（例、公休数を増やす。ICT や DX のさらなる活用など。）の継続実行。
- ・有給休暇取得の推進（申請しやすい職場環境の構築を目指す）

人材確保・育成

- ・人事評価制度を全面リニューアルする。
- ・実習生の受け入れと支援体制を確立する。
- ・人事異動を通じて、「人材連携と人材活性化」を図る。
- ・子ども食堂の継続実施。

○山武みどり学園

実施事業

- ・生活介護（定員 40 名）
- ・施設入所支援（定員 40 名）
- ・短期入所（定員 8 名）

取り巻く環境

- ・利用されている方の年齢層が幅広く、元気に動かれる方と高齢の方や車椅子、歩行が不安定の方が一緒に活動スペースにて生活されている為、接触による転倒事故等への配慮が必要。
- ・地域生活拠点として緊急での利用希望に対して早期に判断すると共に柔軟に受け入れる事が求められる。
- ・施設内の老朽化が見られる箇所が確認されており、特に 1 階の床や 2 階女性棟トイレ内については老朽化が見られる。
- ・厨房の業務見直しにより給茶機、配膳車等が導入される為、厨房職員と支援課職員の連携を図る必要がある。
- ・人材育成、人材確保について各種研修やメンター制度を活用し、新人職員のフォローを全職員で行うと共に、仕事と休憩時の気持ちを切り替える為

の休憩場所の確保が必要。

事業の重点項目

- ・利用者様のニーズを見極めた上で、日課の変更・居住環境の整備を行うと共に他事業所との連携を図る。
- ・緊急での利用希望について柔軟に受け入れを行うと共に、みどり学園では困難なケースについては他事業所と連携を図り受け入れ検討する。
- ・虐待防止・権利擁護の観点から、職員が積極的に外部研修に参加する。外部研修に参加した職員は講師として職場内研修を開催し、パート職員を含めた全職員が互いに学び合う機会を設け、意識醸成を図る。
- ・老朽化が見られる1階廊下の修繕工事を行う。また、その他の老朽化が気になる箇所についても修繕を行っていく。
- ・新人職員が入職した際に、メンター制度を活用し人材育成するとともに、事業所全体でのサポートを実施。
- ・人材確保が重要な要件となっているため、職員が休憩時間を利用者様とは離れた場所で過ごし、気持ちを切り替えて仕事に臨めるような環境を整える事を目的としたラウンジ棟の建設を予定している。

○翡翠の宿一休

実施事業

- ・短期入所（6名）

取り巻く環境

- ・地域の作業所等を利用されている方のご家族様が高齢になって来ていることから、将来のGH入居を考慮しながらの宿泊利用を希望されている。定期的に利用されている方の宿泊希望は多いが、不定期であり、1泊利用も多いことから受け入れ準備や、利用者様の状況把握が難しくなる事もある。
- ・現在、利用者様の受け入れが男性利用者様のみとなっており、利用の幅が狭くなってしまっている。

事業の重点項目

- ・現在、稼働については低い状況が続いてしまっているため、定期的に利用されている方の受け入れを継続しつつ、新規の利用者様を早急に確保し、稼働率80%以上を目指す。
- ・複数の職員が一休夜勤に入っている為、情報共有、連携を取る。また、意見交換の場を設け、団結力を深めることで支援の質の向上に繋げていく。
- ・定期的に一休にて行事、イベントを開催し、利用者様の気分転換、安定を図る。
- ・障害者虐待防止法についての理解を職員に浸透させ、利用者様、ご家族様

も安心して利用出来るようにする。

- 利用者様のこだわりによるトラブルが見られるので、こだわりに配慮し、利用者様が安全に生活を送る事が出来るように環境を整える。
- 緊急受け入れについて、みどり学園と連携し、柔軟に対応する。

○山武青い鳥工房

実施事業

- 生活介護（定員30名）

取り巻く環境

山武圏域でも多くの生活介護事業所があり、利用する事業所を選べる環境が整ってきている。車椅子・医療的ケアの必要な方が利用できる事業所は少なく、相談が増えてきているため、現状のニーズに合わせて職員体制の見直しが必要である。

受け入れについては、放課後等デイサービスから生活介護にスムーズに移行する為、昨年、共生型放課後等デイサービスに事業形態を変えたことで実習生も増えてきている。卒業後の利用に繋がるよう学校や相談事業所との情報共有・連携が必要である。

清水基金の補助金を活用してもう一台特浴を導入できるようになったので、重度の方の入浴ニーズに、今まで以上に受け入れることが出来るようになった。

子ども食堂の会場になっているので、翡翠会をPRできるように各事業所と連携して活動している。

送迎車の経年劣化が見られているので、補助金の活用等購入を検討している。

カサ・ロサーダ2番館との緊急時の応援体制を整えていく必要がある。

事業の重点項目

- 共生型放課後等デイサービスにした強みを活かしてスムーズに移行できるように放課後等デイサービス・生活介護一体で受け入れ態勢を強化していくと共に、特別支援学校の実習を終えた方々が、卒業後の利用に繋がるように学校や相談支援事業所との情報共有・連携を図り、新規利用者様確保に繋げる。
- 特浴の導入により、高齢化・重度化したみどり学園の利用者様や地域の重度障がいの方々を受け入れるなど、入浴ニーズに柔軟に対応していく。
- 子ども食堂を通じて、各事業所の作品販売や日々の活動・食事など写真や映像で掲示し、翡翠会をPRする。ボランティアで来てくれた方々に法人への就職に繋がるよう働きかける。
- 福祉系大学や専門学校からの実習生を積極的に受け入れ、翡翠会をアピー

- ルすることで法人への就職に繋がるように働きかける。
- ・送迎車の更新を検討する。
 - ・カサ・ロサーダの短期入所利用者様の日中活動の場として受け入れを行う。

○山武青い鳥の家

実施事業

- ・共生型放課後等デイサービス

取り巻く環境

圏域内の事業所数は増加してきており、他事業所と併用されている利用者様が多くみられるが、成人のサービスを行っている事業所は少ないため、将来のために併用して慣らしておきたいという利用者も数名見られている。また、去年は特別支援学校からの実習生も多く、身体障がいをお持ちの方は特に興味を示してくれていた。

事業の重点項目

- ・学校、相談支援事業所へ共生型放課後等デイサービスメリット等を伝え、将来的に生活介護が必要な利用者様の情報共有を図る。
- ・特浴の造設が予定されているため、必要な方へ入浴サービスが提供できるよう体制を整える。
- ・2月より祝日営業を開始したため、必要時に利用できるよう保護者等への情報提供を図る。

○カサ・ロサーダ

実施事業

- ・共同生活援助（定員12名）
- ・短期入所（空床型）

取り巻く環境

- ・山武郡市のみならずグループホームの開設が年々増えてきている。
- ・入居者の高齢化が圏域のグループホーム事業所内でも課題であり、介護保険への移行のタイミングや道筋、移行できない場合の事業所内での対応など苦慮している。
- ・食事代の不正請求などの問題が起きてグループホーム運営の透明化が課題となる。

事業の重点項目

- ・空床型短期入所を持っている事を活かし、青い鳥工房等と連携し将来の入居を見据えた体験や、現在の宿泊ニーズに答えられるよう努める。リビングを短期入所用のゾーンに位置付け宿泊しやすい環境の整備。

- ・令和7年度から義務化となる地域連携推進会議の対応。

○すえひろ工房やまぶき

実施事業

- ・生活介護（定員20名）

取り巻く環境

近隣地域（山武市・東金市・芝山町・横芝光町・九十九里町）には生活介護事業所が18か所あり、新たな利用者様確保は困難な状況となっている。現在利用して下さっている利用者様のニーズを事業計画に反映したり、他生活介護事業所と異なる観点での運営上の考え方を打ち出したり等の工夫をしていかなければ運営は困難な状況と言える。

事業の重点項目

- ・緊急の場合はもちろんのこと、地域での利用ニーズにこたえ、スピード感を持って利用開始につなげる。地域生活支援拠点であることぶき庵一休をはじめ、近隣事業所との連携を密に活動する。
- ・利用者様個々のニーズが盛り込まれた事業運営を行い、現在利用して下さっている方の生活をさらに充実したものにしていく。
- ・近隣の特別支援学校との連携に努め、山武圏域の高等部卒業生の進路として選ばれるように活動メニューを充実させる。
- ・障害者支援施設における地域移行等の意向を踏まえたサービス提供を実施する。

○ことぶき庵一休

実施事業

- ・短期入所（5名）

取り巻く環境

地域生活支援拠点として、緊急の利用ニーズにしっかりとこたえていくことが求められている。

前年度の課題であった職員の確保は徐々に進んできてはいるが、現状では利用していく上での不満や課題が解決できない部分が多く、利用開始となっても継続的な利用には至っていない。そのため、稼働率が上げられない現状がある。

事業の重点項目

- ・地域生活支援拠点として、緊急的な利用開始はもちろん、施設入所待機者様や一時保護中の利用者様の受け皿となれるよう関係機関との連携を密にしていく。

- ・現在も利用料の殆どを現金集金しており、そこにある程度の時間を割かれている。引き落としや振込みなど銀行を介して入金されている方には手数料をお支払い頂いているのに、現金入金で手間がかかっている方は手数料が発生しないと云う矛盾も発生している。本年度は、集金代行サービスの活用を推進していく。

○ほほえみの里かきつばた

実施事業

- ・認知症対応型共同生活介護、介護予防認知症対応型共同生活介護
 - ・短期利用認知症対応型共同生活介護
- (定員 18 名)

取り巻く環境

平均年齢 86.4 歳 最高 103 歳 最低 69 歳 平均介護度 2.6

大網白里市内で認知症グループホームは 4 件しかない中、入居の問い合わせは増加しているが、満床により要望に応えられないのが現状である。市内でも認知症高齢者の数は増加しており、高齢者世帯が多く遠方の家族が帰省した際に状況が分かり発覚するケース、入退院後の施設探し、生活保護世帯からの問い合わせが多い。令和 6 年度介護報酬改定以降訪問介護の基本報酬引き下げ、物価高騰が撤退、倒産に繋がっていることから施設サービスの需要は高まっている。

選ばれる施設作りの体制構築を前年度より行っている。外出、外泊、ボランティアの受け入れを積極的に行い、介護施設検索サイトにも 2 社登録した。人材確保部会のメンバーが在籍していることもあり SNS を活用し、情報発信を行っている。

令和 6 年度より虐待防止、身体拘束が義務となっている。特に施設サービスであることで外部の方の目に触れる機会が少ない事から、積極的に情報公開を行うと共に、研修に参加し、知識を取り入れ、防ぐ事に力を入れ、施設の見える化を行う。

小規模多機能への応援を積極的に行い、相互連携を取ることが出来ているが人材難である事に加え、欠勤の多さが課題となっている。フォローに回ることによって外部との対応の遅れ、情報収集の機会損失につながっている。今後も人材難は継続することが予想される。リスクヘッジを図り、少ない人員で運営が出来る体制作りが求められている。

事業の重点項目

- ・入居相談から短期利用、入居に繋がれる体制構築。
- ・小規模多機能、居宅との入居に向けた連携体制の継続。

- 理念に基づいたケアの実施。
生産性向上委員会を立ち上げた。生産性推進体制加算取得を目指し、体験会や研修に参加、デモ機の導入を行う。既存の情報デバイス、ICT を積極活用し、DX を推進していくことで業務効率化を図る。少人数で対応ができる環境作りを行い、余裕を持ち、入居者様のケアを充実させる。
- 災害に強い施設作り。
非常用自家発電の補助金再申請を行うこと。作成した BCP を訓練する事により実用的なものにしていく。
- マルチタスク化。
複数の役割を担うことが出来る人材の育成。

○居宅介護支援事業所かきつばた

実施事業

- 居宅介護支援
- 特定相談支援事業
- 特定障害児相談支援事業

取り巻く環境

- 大網白里市、山武圏域全体の高齢化率の上昇に伴い障害障相談支援の利用者様の高齢化、ご利用者ご家族の高齢化が顕著となっている。8050 問題が身近な現状である。昨年 4 月開始の障がい者地域生活拠点事業では、長年障がいを持ちながらも、家族の支援のみでサービスにつなげていない在宅障がい者が多くいることが改めて認識された。介護、障がい支援どちらも提供提供している事業所は大網白里市では他にはなく、障がい・介護の垣根を超えた相談の場としての役割が益々重要になると考えられる

事業の重点項目

- 障がい・介護共に、短期・長期入所、通所と多様なサービスを提供する法人の特性を活かした相談支援が提供できるよう法人内の事業との連携を益々強化していく
- 障がい者の支援を行う親世代の高齢化、介護では 90 歳代のご夫婦の老老介護、子世帯も高齢期になっている家庭が増加している。家族まるごと支援の視点で相談支援を提供する
- 相談支援専門員自身が子育て中でもあることを活かし、障がい児支援の受け入れも積極的に行っていく
- 地域生活拠点事業では法人内の緊急短期を受け入れた事業所と連携しサービスにつなげていなかった障がい者様の安心できる生活の場の提供に迅速に対応する

- ・介護支援では令和6年の介護保険法改正後要支援認定者の担当受け入れ事業所が減少しているが、介護難民を出さない観点から地域包括と連携し、要支援者様の委託も出来る限り受け、軽度の時から長いご支援の提供を行って、地域の高齢者の支えとなる
- ・介護担当人数の上限が介護認定者のみの場合44名と増加した。居宅介護支援の質の低下を招かないよう配慮を行いながら担当利用者様を増やす

○感染症対策部会

事業の重点項目

・脱マスク着用化

コロナウイルス5類に移行から今年に入り2年が経過する。体調不良やインフルエンザ等の感染症流行期は着用を推奨するが入居者様との円滑なコミュニケーションを図る上ではマスクの着用は不要である為、コロナ前の対応に戻すようにしていく。マスク着用の目安として、感染症流行期の判断は感染症対策部会の方から警報や注意報を出していく。

・感染症啓発活動の推進の継続。

インフルエンザ、新型コロナウイルス、疥癬など特に施設サービスでは集団感染が何年も継続して発生している。感染症に備えるため、外部講師の招聘、Eラーニングなどの研修を開催、情報発信し、啓発活動に努める。職員が感染症に罹患した際の対応マニュアルの認識の違いがあり、浸透していない。全職員が理解できるよう情報をアップデートしていく。

○災害対策部会

事業の重点項目

- ・大規模災害を想定した避難訓練の実施。まずは2事業所間で連携して避難訓練を行い、その後に全事業所と連携して避難訓練を行う。
- ・各事業所の車両に車載用の災害対策グッズの用意。
- ・各事業所での研修・訓練の実施を定期的に行い、BCPのアップデートを行う。
- ・各事業所と翡翠会全体の非常食の定期的なチェック、見直しを行う。

○虐待防止部会・身体拘束適正化部会

事業の重点項目

- ・虐待防止、身体拘束適正化に関わる指針の整備を行なうと共に、各職員に内容の周知を図る。
- ・虐待防止、身体拘束適正化に関する外部研修に参加し、各事業所に伝達研修

を行なうことで、知識、支援の向上を図る。

- 翡翠会独自の職員セルフチェック表を作成・実施し、支援の振り返りを行なうと共に、各事業所の結果に合わせた内部研修を行なう。
- 巡回訪問を行ない、不適切な支援が行われていないか、不適切な支援に繋がる運営環境にないか等を確認し、風通しの良い職場づくりに努める。
- 2 ヶ月毎に、各事業所の身体拘束事案を確認・検証し、不適正な身体拘束が行なわれていないか確認する。
- 通報事案が発生した際に、当該事業所と連携をとり、検証・再発防止策を確認する。検証結果については、法人内で共有する。

○人材確保部会

事業の重点項目

- 人材確保と育成・定着に関して、各事業所（部署）が抱える問題点の洗い出しとアンケート調査等を利用した収集作業を行う。検討し改善計画を策定し、現場責任者とともに見直しを実行する。
- 翡翠会と各事業所（部署）の魅力構築と複数チャンネルを用いた情報発信を行う。
- 人材確保が年々厳しくなっていることを踏まえ、少数精鋭での業務遂行に向け職員個人のスキルアップ情報を集め、研修参加を促すなどの自己研鑽への支援を行う。
- 職員へのエンゲージメント調査を実施する。

○地域における公益的な取り組み

事業の重点項目

- 本会が開催する「ひすいかい子ども食堂」も、大網ロータリークラブや大網白里市に加え、パルシステム等協力団体が増加してきた。今後も関係機関と連携し、地域のニーズに合わせた運営を行う。
年4回 開催 山武青い鳥工房でお弁当配布と作業品販売形式で開催予定。
(5月・11月・2月・3月に開催予定)